

■過去最大のイームズ回顧展が、ついに日本へ

昨年11月2日から12月26日まで、和歌山県立近代美術館で開催されていましたイームズ回顧展が本年各地を巡回、開催されます。主催者の読売新聞から情報を頂きましたので以下に掲載します。チャールズ&レイ・イームズ The Work of Charles and Ray Eames: A Legacy of Invention
会期：2005年3月3日（木）～3月14日（月）＜会期中無休＞10:00～20:00 会場：大丸ミュージアム・東京（大丸東京店12階）主催：読売新聞社、美術館連絡協議会 協賛：hhstyle.com、花王、宝塚造形芸術大学・大学院、図書印刷、日本アイ・ビー・エム、ハーマンミラージャパン、非破壊検査、ビーバンジョア 協力：日本航空
入場料（税込）：一般900円、大高生700円、中学生以下無



料 20
世紀後
半、ア
メリカ
が生ん
だ偉大

なるデザイナー、チャールズ&レイ・イームズ夫妻。“イームズ・チェア”と呼ばれ親しまれる彼らの椅子は、最近テレビCMにも登場し、人気はさらに拡大しています。シンプルで美しく機能的、しかも大量生産による経済性を実現した家具は、まるでジーンズやスニーカーのように、永遠に愛されるスタンダードとして日本人の間にも定着しつつあります。「チャールズ&レイ・イームズ（原題：The Work of Charles and Ray Eames: A Legacy of Invention）」と名づけられた本展は、夫妻の没後、世界有数のイームズ・コレクションを誇るドイツのヴィトラ・デザイン・ミュージアムとアメリカ議会図書館が共同企画したもので、「イームズ回顧展」としては過去最大の規模を誇ります。1997年から世界巡回、イギリスでは“この年、ロンドンで最もエキサイティングな展覧会のひとつ”と評され話題を呼びました。この展覧会がついに日本で開催されます。イームズ夫妻は、優れたデザインが人々の生活を豊かにすること、社会を文化

的に向上させることを信じ、作品にその願いを込めていました。本展では、試作品やプロトタイプ、希少なプロダクト、図面、書面などを膨大な資料を一堂に集め、イームズのデザインのプロセスをたどり、その根源にあるものを探ります。本展を通じて、イームズの時代を超えた魅力をさらに多くの方に伝えるとともに、夫妻の信念“優れたデザインは人々の生活と社会のために”というメッセージに再び耳を傾けていただければ幸いです。詳しくは <http://www.yomiuri.co.jp/osaka-event/>にてご覧になれます。問い合わせ：読売新聞大阪本社文化事業部展覧会制作チーム 企画：Vitra Design Museum, Library of Congress 監修：Donald Albrecht 会場デザイン：Craig Hodgetts and Hsing-Ming Fung 日本展監修：藤田治彦 企画協力：ギャラリーコア巡回予定 2005年3月24日（木）～4月4日（月）大丸ミュージアム・梅田 2005年4月14日（木）～4月25日（月）大丸ミュージアム KYOTO ※その後、1～2会場を巡回

■第13回 IP トークの会

第13回 IP トークの会が、昨年の11月17日（火）、文化シャッター(株)新本社ビルで開催されました。ゲストに、今注目のカーデザイナー中島 敬（なかじま たかし・日産自動車(株)デザイン本部プロダクトチーフデザイナー）さんをお迎えし、「車にモダンリビングの考え方」をテーマに2004年日本カーオブザイヤー特別賞ベストヴァリュー受賞のニッサン「ティアナ」のデザインの考え方・プロセスなどについて語っていただきました。聞き手は、JIPAT 副会長の志村 美治（しむらよしはる）さん。TVのコマーシャル

が流れる中で始まり、会場のスクリーン一杯に映し出された画像を見ながら中島さんと志村さんのトークで会が進められました。クルマのインテリアに日本的な考え方で主張できないだろうか。という中嶋さんのティアナに注がれた熱い思い。デザインの考え方をビジュアライズした「富士山ビデオ」。エクステリアデザインを検するためのコンピュータグラフィックスによる走行イメージビデオで、中国市場で競合車となるクルマを、さりげなくティアナが追い抜いていくシーンなど。従来の形式にこだわらない、新しいプレゼンテーション方法に、新鮮さを感じたり、建築と相通じるものを見出したり、中

嶋さんの親しみのあるわかりやすいトークに大勢の参加者が、心地よい刺激を受けました。恒例の懇親会は、会場のホワイエで行なわれ、ワインを片手にトークの余韻に浸りながらの談笑。また、IP トークの会に先がけ、「オフィスに住宅の要素を取り入れた出来たての空間」文化シャッターの新社屋の見学を、インテリア設計を担当されました久米設計(株)の佐藤勝さんの案内で行なわれました。今までになくとても中身の充実した催しに、参加された9割以上の方々から「おおいに満足」とのアンケート評価をいただきました。